

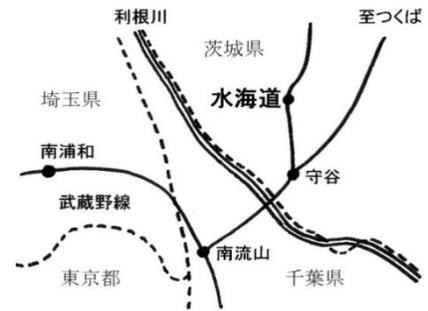
■矢口新の教育思想と実践の研究：活動報告－水海道①

水海道みづかいどう小学校保存資料調査 2007/08/09, 10/27

子どもが育つ、教師が育つ

何年ぶりかの水海道は、随分近くなった。武蔵野線の南流山で新しくできた「つくばエクスプレス」に乗ると20分足らずで守谷。ここからは昔どおり関東鉄道に乗り換えて13分で水海道。

調査の目的は、水海道小における矢口教育学の実践について、関係者から直接聴くこと、さらにその実態を示す資料を探すこと。



◆ 子どもが生き生き活動していた水海道小…当事者の話から

当時の水海道小主要4教科教師陣である倉持、飯沼、大久保、飯村の4氏、そして卒業生の菊池さんの口から、何十年もたった今でも熱くいきいきと語られる活動の状況、中でも菊池さんの具体的で鮮明な記憶。「2つの新聞社があり、それぞれ社長がいて経営、その下に編集長がいた」「新聞部と放送部は絶えず情報交換していた」「新聞は1部5円で、ほとんどのものが買っていた」「購買部は仕入れもやり、売値は定価だったから利益はかなりあった」聞いていけばどんどん話が出てくる。「休み時間、子どもたちは仕事で忙しかった」「先生はいなくてもできた。私たちには自信があった」さらに菊池さんは言う。「部活動と呼ばれた自治活動、今考えると、その中に(基礎的な社会)生活のすべてがあった。そして、本当に楽しかった。」

我々がイメージしていたものをはるかに超えた、「力動的」な教育が展開されていたことを実感。

◆ 膨大な保存資料の発見

そして故猪瀬校長の膨大な資料の発見。日本で初めて本格的に、また長期にわたって展開された新しい学校教育への取り組みのプロセスを読み解くことができる珠玉の資料群。猪瀬資料の一部は歴史の部屋に展示されていたが、残り9割の資料の所在は誰の記憶にもなく、学校移転の際に処分されたかと思われていた。古びた書棚の中に物言わず静かに眠っていたそれらの資料を、今回歴史の部屋に行く途中でふと棚を覗き込んで発見したのである。古希を越えた先生方や、卒業生の菊池さんと共に、そのたくさんの資料を、埃を払いつつリストを作成したが、1948年頃からの記録や写真、子どもたちの作った新聞など、当時の教育実践の実態を語る多数の貴重な資料を確認。よくぞ今日まで保管されていたと驚くばかり。

◆ 50年前の教師の活動報告書

拾い読みした資料の一つに、水海道小学校のカリキュラム研究の報告書「教育課程の問題点とその探求」(昭和28年)があった。「実践的行動的な生活人」の育成を目的とし、子どもの自治活動とクラブ活動を中核において「内容学習」(社会科・理科・家庭科)と「用具学習」(国語・算数・図工・音楽・体育)を関連づける独自のカリキュラムづくり、昭和24年から5年間のプロセスを克明に記録したものである。

「教育の立つ現実が難しければ難しい程、そのめざすところがとらえ難ければそれだけに、われわれはより本質的な研究と実践によってゆるぎなき成果を求めなければならぬ。この本格的な努力をなおざりにして、皮相的な考え方や形式的な方法の切り替えだけでは、真の成果は生まれてこないであろう。」との意気込み、新しい教育をつくりあげようとする情熱が伝わってくる。単なる成果

発表ではなく「問題の把握のしかた、その探究のあり方を問題にした」とあるように、地域の実態調査をもとに教育を設計し実践する中で、失敗し、反省し、修正していく、教師自身が教育のあり方を探究し学んでいった過程が記されている。水海道小の子どもがいきいきと育ったのは、教師たちが育ったからに違いない。総計2万頁を超える資料群から「教師が育った条件」がきっと明らかになるだろう。今後の調査研究が楽しみである。



調査班：小澤秀子，榊正昭，越川求，北村恭子，矢口みどり

(JADEC ニュース 73号より)